

日本製粉(株) 第3四半期累計期間の連結業績および通期連結業績予想

日本製粉(株)(社長 近藤雅之)の平成29年3月期第3四半期累計期間の連結業績は、売上高2,374億円(前年同期比100.5%)、営業利益90億円(同103.1%)、経常利益104億円(同101.7%)、親会社株主に帰属する四半期純利益71億円(同100.7%)の増収増益となりました。

< 連結業績の概要 >

(%表示は対前年同期比率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成29年3月期第3四半期	237,491	100.5	9,045	103.1	10,434	101.7	7,150	100.7
平成28年3月期第3四半期	236,414	105.0	8,777	141.0	10,265	139.3	7,101	133.7

< 連結業績のポイント >

- 売上高は、価格改定等の影響により製粉事業は減収となるも食品事業・その他事業の伸張により増収
- 利益面では、販売の拡大と継続的なコスト削減効果等により増益

< 連結業績の概況 >

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な雇用環境に支えられ、引き続き緩やかな回復基調を維持しました。しかしながら、中国をはじめとするアジア新興国等の景気減速に加え、英国EU離脱問題や米国大統領選挙の結果を受け、国際的に先行き不透明な状況が続いており、依然として国内景気の本格的な回復には至っておりません。

食品業界においては、食の安全性について注目が集まる一方で、国内景気動向の影響を受け、外食・中食市場を中心に消費者の節約志向が強まっています。

このような事業環境において、多様な状況の変化へ柔軟かつスピーディに対処するため、当社グループは従来の基本施策を踏襲し、コスト削減と販売の拡大を軸に、グループ全体の事業基盤の強化に取り組んでおります。

昨年4月には、当社グループのニップドーナツホールディングス(株)がドーナツショップ等を展開する大和フーズ(株)の全株式を取得したことにより、大和フーズ(株)が当社の連結子会社となりました。また、昨年11月1日には当社グループの連結子会社である東福製粉(株)が、株式交換により当社の完全子会社となりました。これらにより、グループ一体経営による経営資源の最適な配分を可能にするとともに、さらなる連携強化と経営効率化を図ることで、事業シナジーを一層高めてまいります。

研究・開発の分野においても、農研機構との共同研究による、小麦のでんぷん改変によりパンの硬化を抑制する研究や、日本初のデュラム小麦新品種「セトデュール」の共同開発、国内製造によるプレミアムパスタ「REGALO(レガーロ)」の開発など、当社グループとして、未来に向けた研究・開発を進めております。

なお、昨年9月に取得金額9億2千2百万円、取得総数122万3千株の自己株式を取得しております。また、昨年10月1日には当社普通株式2株を1株に併合し、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

< 連結業績予想 >

(%表示は対前期比率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成29年3月期 通 期	320,000	102.7	11,500	103.7	13,000	102.6	8,500	103.4

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、第3四半期連結累計期間の業績を踏まえ、昨年5月13日に公表いたしました通期の連結業績予想を以上のとおり修正しております。期末配当金は10月1日の株式併合により1株当たり14円を予定しております。なお、株式併合後に換算した年間配当金合計は1株当たり28円となります。

以上